

原水爆禁止世界大会 参加報告

世界平和の願いを共有して

風化させてはいけない

尾張健康友会 本部

経理課 西岡 成椰

8月4日から6日にかけて行われた「原水爆禁止2024年世界大会」に愛知県代表団の一員として5名で参加しました。4日には開会総会、5日には分散会として原爆めぐり、6日にはヒロシマデー集会に参加しました。参加者全ての願いは「世界平和」で共通であることが強く印象に残っています。

これからの人生があるはずだった」というお話を聞き、生きた証として残していくこと、今後一切核兵器は使うべきではないということに改めて強く感じました。

また、被爆者の方のお話を聞き、あまりの凄惨さに言葉を失いました。「思い出したくないが、この悲劇を二度と起こさないために話していかねければならない」と言われており、お話を聞いたことに大きな感謝を感じました。今も後遺症に悩んでいること、子どもや孫が生まれるたびに影響はないか心配だということとを話され、まだ原爆投下の影響は終わっていない、この出来事を風化さ

被爆者に寄り添うことが大切

千秋病院

医療福祉相談室

草間 日菜子

被爆者が受けた被害は、ずっと続いていることを学ぶ機会になりました。特に被爆者の方の話が印象に残りました。「子どもが私の被爆の影響を受けたらと心配になる」「被爆者だと知られると結婚が破談になる」という被爆者の不安な気持ちは、胸が痛く、被爆当時の傷だけでなく、一生残る心の傷があることを知りました。

加えて、被爆者だと知られたくないにも関わらず、住所や苗字が知られることがあると知りませんでした。いつの間にか被爆者であることが知られている恐怖。この不安や恐怖の気持ちをほかの人に理

解してもらおうのはなかなか難しいと話します。「私は理解してもらえぬ夫と出会えたので良かったが、知り合いの被爆者には相手の母から結婚の破談を伝えられた方もいる」との話もあり、被爆者の気持ちに寄り添うことができる人は少ないと感じました。

被爆者の平均年齢が85歳を超えた今、原爆の被害について語り継ぐ人も少なくなり、改めて、戦争の歴史について学び、より多くの人が被爆者に寄り添う考えを持つことが大切だと感じました。

NOMORE核兵器

千秋病院 A2病棟

加藤 諒真

これを読んでいる皆さんは戦争の話、核兵器の話聞いて自身の生命に危機感を持ったことはありますか？

「原水爆禁止世界大会開会式に参加したのは4000人だった」。平和委員の方が肩を落として言った言葉に、私たちの危機感の薄さに問題意識を感じました。

海外の人にも伝えたい

千秋病院

リハビリテーション科

勘部 将誠

原水爆禁止世界大会に参加して原爆の惨状、被爆者の想いを聞き、亡くなられた方だけでなく残された人のつらさや被爆によって産まれてくる子にも被害が広がる不安や恐怖について学ぶことができました。

多くの外国人の方が参加されており、戦争について危機感を持つ人が増えていると感じました。戦争を知らない世代だけでなく、海外の人にも原爆の影響を知ってもらい核兵器をなくそうと思う人を増やし、次世代につなげていくことが必要だ



千羽鶴を届けました

健友福祉会だより

ホームページ <http://www.chikiki.com/fukushi>

催し盛りだくさんに

萩原ホームちあき納涼祭

7月17日に納涼祭を行ないました。魚釣りや輪投げなどのゲームコーナーでは、どの魚を釣ろうか、どのピンに輪っかを入れようかと品定めをしながら楽しんで参加されました。一番点数の多かった利用者さんには、おやつのかき氷が豪華になっており、喜んで食べていただきました。

お昼は、焼きそばやフライドポテトなど屋台で出てくるようなメニューで、お祭りの雰囲気味わうことができました。ホットプレートで焼きそばを焼

き、フロア内がいい匂いがしており、食べる前からお腹が鳴りっぱなしでした！

午後からはスイカ割りを行いました。周りの利用者さんや職員から「もっと前！」「もう少し右！」と声

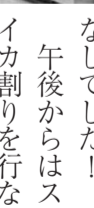
が飛び交う中、なかなか割れなかったのです。皆さん盛り上がりました。

納涼祭のフィナーレはフラダンスショー！ボランティアの方々

の素晴らしい踊りを見て「良かったー」との声が多く聞かれ、楽しい納涼祭となりました。

萩原小規模多機能ホームちあき

介護職員 中野 里美



社会福祉法人尾張健友福祉会

ケアハウスちあき/地域交流スペース
デイサービスセンター・ちあき
藤が丘デイサービスセンター
介護保険サービスセンター・ちあき
岩倉小規模多機能ホーム・ちあき
岩倉デイサービスセンター・ちあき
特別養護老人ホーム・ちあき
特別養護老人ホーム・ちあき 第二
萩原小規模多機能ホームちあき
萩原グループホームちあき

電話番号・FAX番号は5面をご覧ください。



愛知県代表団と一緒に原爆ドームの前で

「子どもが私の被爆の影響を受けたらと心配になる」「被爆者だと知られると結婚が破談になる」という被爆者の不安な気持ちは、胸が痛く、被爆当時の傷だけでなく、一生残る心の傷があることを知りました。

加えて、被爆者だと知られたくないにも関わらず、住所や苗字が知られることがあると知りませんでした。いつの間にか被爆者であることが知られている恐怖。この不安や恐怖の気持ちをほかの人に理

解してもらおうのはなかなか難しいと話します。「私は理解してもらえぬ夫と出会えたので良かったが、知り合いの被爆者には相手の母から結婚の破談を伝えられた方もいる」との話もあり、被爆者の気持ちに寄り添うことができる人は少ないと感じました。

被爆者が受けた被害は、ずっと続いていることを学ぶ機会になりました。特に被爆者の方の話が印象に残りました。「子どもが私の被爆の影響を受けたらと心配になる」「被爆者だと知られると結婚が破談になる」という被爆者の不安な気持ちは、胸が痛く、被爆当時の傷だけでなく、一生残る心の傷があることを知りました。

加えて、被爆者だと知られたくないにも関わらず、住所や苗字が知られることがあると知りませんでした。いつの間にか被爆者であることが知られている恐怖。この不安や恐怖の気持ちをほかの人に理

解してもらおうのはなかなか難しいと話します。「私は理解してもらえぬ夫と出会えたので良かったが、知り合いの被爆者には相手の母から結婚の破談を伝えられた方もいる」との話もあり、被爆者の気持ちに寄り添うことができる人は少ないと感じました。

草の根活動を続けて

北名古屋支部

早川 雅澄

炎天下の碑めぐりは暑かった。あの日も暑かった。肌は焼け、水はなく、助けもない中での暑さは、想像を絶する。

高校生の平和活動が多彩でいきいきとしている。小さい頃、親に連れ

られて絵本を読んだり、鶴を折ったり、楽しい遊びを通して、友だちと一緒に平和活動に関わっていった。誘い合って被爆体験を聞いたり、戦争の実相を学んで衝撃を受けるなど関わり続けた。そして、今この場に